

掲載するにあたり万全を期しておりますが、使用する際にはラベルを良くお読み下さい

タフラー[®]乳剤80

農林水産省登録番号	第 20781 号
農薬の種類	ブタミホス乳剤 (80.0%)
有効年限	4 年
包装	500ml×20
魚毒性	B 類相当 (製剤)
PRTR	ブタミホス (1 種 47) 80.0% キシレン (1 種 80) 8.7%以下

■特徴

◇除草剤

◇土壌処理でスズメノカタビラに安定した効果がある。

- ・広範囲の雑草に殺草効果を発揮し、特にイネ科一年生雑草に優れた除草効果を示し、特にスズメノカタビラ、メヒシバには卓効がある。
- ・有効成分は有機リン系のブタミホスで、土壌表面に強く吸着され、処理層を形成する。これに出芽した雑草が接触して殺草効果を発揮する。
- ・薬剤の流失が少なく、天候条件によるが4ヶ月程度効果は持続する。
- ・張り芝直後の芝生には薬害の恐れがあるので、使用しない。
- ・西洋芝には使用しない。
- ・多年生雑草およびキク科雑草には効果が劣るので、これらの優先する場所では他剤との使用をご検討下さい。
- ・雑草化したベントグラス、ケンタッキーブルーグラスを防除できます。

■作物名

日本芝

■適用病害虫・雑草木名

イネ科、カヤツリグサ科、一年生広葉 (アブラナ科、ナデシコ科、ザクロソウ科、ヒユ科)。発芽前の土壌処理。

タフラーはイネ科、カヤツリグサ科や多種類の広葉雑草 (アブラナ科、ナデシコ科、ザクロソウ科、ヒユ科) に効果が大きい。メヒシバ、スズメノカタビラにはタフラー乳剤 0.375ml~0.5ml/m² の発芽前に処理する。広葉雑草には 0.375ml~0.625ml/m² の

発芽前に処理する。雑草発生後処理は除草効果が劣るのでご注意ください。
雑草化したベントグラス、ケンタッキーブルーグラスを防除できます。

■適用雑草と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	散布液量	本剤の使用回数	使用方法	フタミスを含む農薬の総使用回数
日本芝	一年生イネ科雑草	春期 芝生育期 (雑草発生前)	300～ 600ml/ 10a	250～ 300ℓ/10a	2回 以内	土壌 全面 散布	2回以内
	一年生雑草 (キク科を除く)		600～ 1200ml /10a				
		秋期 芝生育期 (雑草発生前)	350～ 550ml/ 10a				
	ベントグラス ケンタッキー ブルーグラス	芝生育期 (雑草生育期)	600～ 1200ml /10a				

■効果・薬害等の注意

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- (2) 雑草発生前処理の効果は大きいですが、既発生の雑草には効果が劣る。必ず発生前に芝生全面に均一に散布する。(効果)
- (3) 多年生雑草およびキク科雑草には効果が劣るので、それらが優占する場所での使用は避ける。1年生広葉雑草が優占する場所では所定範囲内で薬量を多めにする。(効果)
- (4) 薬害のおそれがあるので、ターフ形成前の芝生には使用しない。
- (5) 洋芝には使用しない。(薬害)
- (6) 時として葉先が黄化することがあるが、その後回復し、生育には影響しない。
- (7) 土壌が極度に乾燥している場合には、事前に水を散布するか、散布液量を多めにする。(効果)
- (8) 草花・樹木等にかからないようにする。(薬害)
- (9) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意する。
 - ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにする。
 - ② 養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努める。
- (10) 本剤の使用にあたっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意する。
- (11) 使用後の薬液調製容器や散布器具は十分水洗いしておく。

■安全使用上の注意

マスク着用

防除衣着用

手袋着用

- (1) 散布時には防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣等を着用する。
- (2) 作業後は身体を石けんでよく洗い、洗眼・うがいをして、衣服を換える。
- (3) 誤飲等のないよう注意する。飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当てを受ける。使用中に身体の異常を感じた場合は直ちに医師の手当てを受ける。
- (4) 眼に入らないよう注意する。付いた場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受ける。(刺激性)
- (5) 皮膚に付着しないよう注意する。付いた場合には、直ちに石けんでよく洗い落とす。(刺激性)
- (6) 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- (7) 使用後の薬液調製容器や散布器具は十分に水洗する。
- (8) 自動車などにかからないようにする。(塗装汚染)
- (9) 解毒剤としては動物実験で硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤の併用投与が有効であると報告されている。
- (10) ・水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
・使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- (11) 密栓し、火気を避け、食品と区別して直射日光の当たらない冷涼な所に保管する。
- (12) 危険物第四類第二石油類に属するので、火気に十分注意する。

®は住友化学株式会社の登録商標です。

Copyright 2011 Sumika Green Corporation All Rights Reserved.